

わたしたちの暮らしを考える会  
～ 経過報告 ～

これまでに2回にわたり、「わたしたちの暮らしを考える会」を実施しましたので、ご報告します。

同会では、将来の生活について前向きに考えて、あるべき生活についてイメージをもち、またそれを実現させるために何が必要となるのかについて、きちんと整理しながら結実させようということで取り組んでいます。

第1回は6月16日(木)に実施しています。当会理事の桃山学院大学の石田易司先生による進行のもと、ランダムに分かれた7グループで意見交換しながら、各グループが、よい生活を送るために必要なことをKJ法にて項目ごとに分類して模造紙にまとめ発表しました。

生活に欠かすことの出来ない「**お金**」や「**社会保障・医療**」→生活費はもちろん、その人らしく暮らすために収入はもちろん社会生活や生きがいにもつながる「**仕事**」→やりがいや、その人の特性に合った仕事

日々の暮らしの拠点である「**住居**」→ ケアホーム・グループホーム、住み良い環境。

生活を豊かなものにする「**余暇・趣味**」。継続して安心できる生活をサポートする「**支える人**」→困ったことを相談できる相手、食事の管理をしてくれる人、気の合う仲間、ヘルパー、後見人など。

普段何となく漠然と感じていることを、意見を言い合ってまとめていくことは、課題整理において重要だと改めて感じます。

第2回は7月29日(金)実施しています。菱川港育成園園長兼生活支援センター所長にアドバイザーとして加わっていただき行いました。

前半では、前回に挙げた課題をふまえつつ、もう少し踏み込んで、メンバー構成が変わったグループの中で話し合いをしています。



そのなかで重点的に挙がってきているのが、地域生活に向けてと社会資源の中身についてです。

特にグループホームやケアホームを視野においた場合には、入居に至るまでの課題と、入居してからの不安点などが出ていました。以前と比べれば利用することに関して身近になったイメージはあるが、安心して暮らしていくためにすべきことが色々あり、それぞれの想いを発表しました。

後半では、当会大西理事よりこれまでの地域生活移行に向けての体験から感じたことや考えてきたことをお話いただきました。

「親離れ子離れの機会があれば、試してみるとこれまでに気づけなかったことが分かったり、本人にも思わぬ変化や進歩があるので、とりあえずチャレンジして将来につなぐことも大事では」とアドバイスがありました。

今後については未定ですが、こうした機会を積み重ねながら前に進んでいければと思います。

大阪市地域福祉推進委員会について  
(第3期地域福祉計画策定に向けて)

主に、平成24年度より実施される第3期地域福祉計画策定(2011年5月発行215号参照)の取り組みを中心とする**大阪市地域福祉推進委員会**が7月開催されています。

同会は地域の市民代表・社会福祉事業を経営する者・社会福祉活動を行う者や学識者で編成されており、これからも数回開催して地域福祉計画が検討されます。

今回はまず**現行の第2期地域福祉計画の推進状況の確認**ということで、**重点実施項目**(①総合的な相談体制の充実、②地域福祉の担い手の養成・確保)の現状確認をおこなわれました。

中身としては、主に**地域ネットワーク委員会**の推進状況です。この事業は概ね小学校区単位として設置され、連合振興町会、社協、民生・児童委員などの代表者で構成しています。活動内容は、支援を必要としている住民ニーズの発見や相談支援・関係機関への連絡調整をおこなう組織で、大阪市では約20年前より他に先駆けて設置されました。当初は高齢者支援の取り組みとして開始しましたが、現在は支援対象者を障害者や児童へと拡充しています。現在課題として挙げたのは、各地域のネットワーク推進員の資質により大きく差が生じている点です。その対応として、活動マニュアルの作成と活動日誌の標準化なども進めているが、さらなる問題整理と改善要求が出席委員より言及されています。(次頁へ)